

四半期報告書

(第97期第2四半期)

図書印刷株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【経営上の重要な契約等】	5
3 【財政状態及び経営成績の分析】	5
第3 【設備の状況】	7
第4 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【株価の推移】	10
3 【役員の状況】	10
第5 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
2 【その他】	22
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	23

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成20年11月13日

【四半期会計期間】 第97期第2四半期(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

【会社名】 図書印刷株式会社

【英訳名】 Tosho Printing Company , Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 沖津 仁彦

【本店の所在の場所】 東京都港区三田五丁目12番1号

【電話番号】 03(3473)7300(代表)
(上記は登記上の本店所在地で実質的な本社業務は下記で行っております。)

【事務連絡者氏名】 常務取締役財務本部長兼管理部担当 近江屋 喬

【最寄りの連絡場所】 (本社事務所)
東京都港区高輪一丁目3番13号

【電話番号】 03(3473)7330

【事務連絡者氏名】 常務取締役財務本部長兼管理部担当 近江屋 喬

【縦覧に供する場所】 図書印刷株式会社本社事務所
(東京都港区高輪一丁目3番13号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第97期 第2四半期連結 累計期間	第97期 第2四半期連結 会計期間	第96期
会計期間	自 平成20年 4月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成20年 7月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成19年 4月1日 至 平成20年 3月31日
売上高 (百万円)	31,174	15,678	65,797
経常損失()又は 経常利益 (百万円)	61	123	2,051
四半期純損失()又は 当期純利益 (百万円)	149	221	941
純資産額 (百万円)		38,415	39,187
総資産額 (百万円)		65,297	68,054
1株当たり純資産額 (円)		447.11	455.86
1株当たり四半期純損 失()又は当期純利益 (円)	1.74	2.58	11.74
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)		58.8	57.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	922		3,648
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,968		2,598
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	355		2,925
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)		6,985	10,388
従業員数 (名)		1,849	1,812

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、1株当たり四半期純損失を計上しており、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、潜在株式調整後1株当たり当期純利益についても潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	1,849
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	1,482
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門の名称	生産高(百万円)
出版印刷部門	11,088
商業印刷部門	4,720
その他	263
合計	16,072

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第2四半期連結会計期間における受注実績を事業の部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門の名称	受注高(百万円)	受注残高(百万円)
出版印刷部門	11,115	1,696
商業印刷部門	4,871	1,302
その他	240	
合計	16,226	2,999

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門の名称	販売高(百万円)
出版印刷部門	10,826
商業印刷部門	4,612
その他	240
合計	15,678

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 相手先の販売実績については、総販売実績に対する割合が10%以上の販売先はないため、記載を省略しております。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1） 経営成績の分析

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発する金融・資本市場の混乱や、原油価格の高騰による物価の上昇などの影響により、企業収益が悪化するとともに、個人消費や設備投資も低迷するなど景気は引き続き減速いたしました。

印刷業界におきましても、用紙をはじめとした原材料の値上りにより利益率が大幅に悪化するなど、事業環境は依然として厳しい状況が続きました。

このような経営環境下において、当社グループの当第2四半期連結会計期間の業績は、売上高156億7千8百万円、営業損失1億4千4百万円、経常損失1億2千3百万円、四半期純損失2億2千1百万円となりました。

事業部門別の業績を示すと次のとおりであります。

出版印刷部門は、絵本、マンガ・コミック、新聞等が増加しましたが、雑誌、フリーマガジンが減少しました。その結果、当第2四半期連結会計期間の売上高は108億2千6百万円となりました。

商業印刷部門は、カタログ・パンフレット、フリーペーパー等が減少しましたが、リーフレット・チラシ、POP等が増加しました。その結果、当第2四半期連結会計期間の売上高は46億1千2百万円となりました。

その他の部門は、学校図書株式会社及び印刷事業以外の売上高を「その他」に区分したため、当第2四半期連結会計期間の売上高は2億4千万円となりました。

（2） 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ27億5千7百万円減少し、652億9千7百万円となりました。これは主に現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ19億8千5百万円減少し、268億8千1百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金、未払法人税等の減少によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ7億7千1百万円減少し、384億1千5百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における「現金及び現金同等物」は、主に定期預金の預入及び有価証券の取得に伴い、69億8千5百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における営業活動の結果減少した資金は、6億3千6百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失1億9千6百万円に加え、減価償却費の計上6億6千2百万円、賞与引当金の増加5億5百万円、たな卸資産の増加6億9百万円、貸倒引当金の減少1億7千5百万円及び仕入債務の減少5億1千6百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における投資活動の結果使用した資金は、33億5千5百万円となりました。これは主に定期預金の預入10億円、有価証券の取得19億9千4百万円及び有形固定資産の取得2億8千9百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における財務活動の結果使用した資金は、9百万円となりました。これは主に自己株式の取得によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は47百万円であります。

当第2四半期連結会計期間において研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、第1四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成20年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	86,267,808	86,267,808	東京証券取引所 (市場第一部)	
計	86,267,808	86,267,808		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年9月30日		86,267		13,898		12,992

(5) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住 所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
凸版印刷(株)	東京都台東区台東1-5-1	38,104	44.17
日本マスタートラスト信託銀行(株) (退職給付信託口・D I C(株)口)	東京都港区浜松町2-11-3	6,129	7.10
東洋インキ製造(株)	東京都中央区京橋2-3-13	2,315	2.68
(株)三井住友銀行	東京都千代田区有楽町1-1-2	1,720	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(中央三井アセット信託銀行再信託分・C M T Bエクイティインベストメンツ(株)信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,398	1.62
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4 G)	東京都中央区晴海1-8-11	1,173	1.35
図書印刷従業員持株会	東京都港区高輪1-3-13	1,114	1.29
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,082	1.25
図書印刷共栄会	東京都港区高輪1-3-13	1,057	1.22
(株)学習研究社	東京都大田区上池台4-40-5	1,011	1.17
計		55,106	63.87

- (注) 1 日本マスタートラスト信託銀行(株)(退職給付信託口・D I C(株)口)の所有株式は、D I C(株)から委託された信託財産であり、議決権行使の指図者はD I C(株)です。
- 2 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(中央三井アセット信託銀行再信託分・C M T Bエクイティインベストメンツ(株)信託口)の所有株式は、中央三井信託銀行(株)が所有していた当社株式をその全額出資子会社であるC M T Bエクイティインベストメンツ(株)へ現物出資したものが、中央三井アセット信託銀行(株)に信託された上で、日本トラスティ・サービス信託銀行(株)に再信託されたものであり、議決権行使の指図者はC M T Bエクイティインベストメンツ(株)です。
- 3 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)の所有株式は、全て信託業務に係る株式です。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区 分	株式数(株)	議決権の数(個)	内 容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 418,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 84,889,000	84,889	
単元未満株式	普通株式 960,808		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	86,267,808		
総株主の議決権		84,889	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が11,000株(議決権11個)含まれておりません。

【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 図書印刷株式会社	東京都港区高輪1 3 13	418,000		418,000	0.48
計		418,000		418,000	0.48

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	256	272	277	283	278	284
最低(円)	221	252	261	257	258	260

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を早期に適用しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,665	5,072
受取手形及び売掛金	17,972	20,679
有価証券	6,315	5,325
親会社株式	354	500
商品及び製品	188	225
仕掛品	1,763	1,226
原材料及び貯蔵品	256	256
繰延税金資産	771	594
その他	353	211
貸倒引当金	163	176
流動資産合計	31,478	33,916
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,636	19,538
減価償却累計額	9,254	8,884
建物及び構築物(純額)	10,382	10,654
機械装置及び運搬具	34,765	35,851
減価償却累計額	28,083	28,490
機械装置及び運搬具(純額)	6,682	7,360
工具、器具及び備品	1,946	1,940
減価償却累計額	1,547	1,523
工具、器具及び備品(純額)	399	417
土地	9,548	9,548
建設仮勘定	1,134	101
有形固定資産合計	28,147	28,081
無形固定資産		
のれん	607	691
その他	350	373
無形固定資産合計	958	1,065
投資その他の資産		
投資有価証券	2,314	2,388
繰延税金資産	1,452	1,672
その他	1,103	1,464
貸倒引当金	157	534
投資その他の資産合計	4,712	4,991
固定資産合計	33,818	34,138
資産合計	65,297	68,054

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,704	15,839
関係会社短期借入金	2,500	2,500
1年内返済予定の長期借入金	800	-
未払法人税等	26	660
賞与引当金	748	758
役員賞与引当金	26	76
返品調整引当金	0	3
設備関係支払手形	1,724	818
その他	2,116	2,840
流動負債合計	22,645	23,497
固定負債		
長期借入金	-	800
退職給付引当金	4,022	4,246
役員退職慰労引当金	213	323
固定負債合計	4,236	5,370
負債合計	26,881	28,867
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,898	13,898
資本剰余金	16,491	16,491
利益剰余金	8,167	8,808
自己株式	138	128
株主資本合計	38,418	39,070
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	35	82
評価・換算差額等合計	35	82
少数株主持分	32	34
純資産合計	38,415	39,187
負債純資産合計	65,297	68,054

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	31,174
売上原価	27,106
売上総利益	4,068
販売費及び一般管理費	
運搬費	1,142
役員報酬及び給料手当	1,830
賞与引当金繰入額	226
役員賞与引当金繰入額	23
退職給付費用	46
役員退職慰労引当金繰入額	25
その他	992
販売費及び一般管理費合計	4,287
営業損失(△)	△219
営業外収益	
受取利息	25
受取配当金	258
その他	46
営業外収益合計	329
営業外費用	
支払利息	22
その他	25
営業外費用合計	48
経常利益	61
特別利益	
投資有価証券売却益	0
貸倒引当金戻入額	30
特別利益合計	30
特別損失	
固定資産除売却損	55
投資有価証券評価損	51
会員権評価損	7
特別損失合計	115
税金等調整前四半期純損失(△)	△23
法人税、住民税及び事業税	44
法人税等調整額	82
法人税等合計	127
少数株主損失(△)	△1
四半期純損失(△)	△149

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
売上高	15,678
売上原価	13,659
売上総利益	2,018
販売費及び一般管理費	
運搬費	572
役員報酬及び給料手当	953
賞与引当金繰入額	66
役員賞与引当金繰入額	14
退職給付費用	19
役員退職慰労引当金繰入額	14
その他	521
販売費及び一般管理費合計	2,162
営業損失(△)	△144
営業外収益	
受取利息	14
受取配当金	3
その他	24
営業外収益合計	42
営業外費用	
支払利息	11
その他	10
営業外費用合計	22
経常損失(△)	△123
特別利益	
投資有価証券売却益	0
貸倒引当金戻入額	11
特別利益合計	11
特別損失	
固定資産除売却損	24
投資有価証券評価損	51
会員権評価損	7
特別損失合計	83
税金等調整前四半期純損失(△)	△196
法人税、住民税及び事業税	3
法人税等調整額	22
法人税等合計	25
少数株主損失(△)	△0
四半期純損失(△)	△221

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△23
減価償却費	1,318
のれん償却額	84
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△139
前払年金費用の増減額(△は増加)	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△381
受取利息及び受取配当金	△283
支払利息	22
有形固定資産除売却損益(△は益)	55
投資有価証券売却損益(△は益)	△0
投資有価証券評価損益(△は益)	51
会員権評価損	7
売上債権の増減額(△は増加)	1,832
たな卸資産の増減額(△は増加)	△500
仕入債務の増減額(△は減少)	△366
その他	△350
小計	1,324
利息及び配当金の受取額	283
利息の支払額	△22
法人税等の支払額	△661
営業活動によるキャッシュ・フロー	922
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,000
有価証券の取得による支出	△1,994
有価証券の売却及び償還による収入	21
有形固定資産の取得による支出	△944
有形固定資産の売却による収入	5
投資有価証券の売却による収入	4
無形固定資産の取得による支出	△36
その他	△24
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,968
財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得による支出	△10
配当金の支払額	△344
少数株主への配当金の支払額	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△355
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,401
現金及び現金同等物の期首残高	10,388
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△1
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 6,985

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
1	<p>連結の範囲の変更 図書物流株式会社は、第1四半期連結会計期間において、凸版物流株式会社と合併し解散したため、連結の範囲から除外しております。</p>
2	<p>会計処理の原則及び手続の変更</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として売価還元法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。 なお、この変更による営業損益、経常損益及び税金等調整前四半期純損益に与える影響はありません。</p> <p>(2) リース取引に関する会計基準の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。 また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。 この変更による営業損益、経常損益及び税金等調整前四半期純損益に与える影響はありません。</p>

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
<p>※ 圧縮記帳 過年度に取得した資産のうち国庫補助金等による圧縮記帳額は建物について150百万円であり、連結貸借対照表計上額はこの圧縮記帳額を控除しております。</p>	<p>※ 圧縮記帳 同左</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	3,665百万円
有価証券	6,315 〃
計	9,980百万円
預入期間が3か月超の定期預金	△1,000百万円
償還期間が3か月を超える債券等	△1,994 〃
現金及び現金同等物	6,985百万円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日
至 平成20年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	86,267,808

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	418,359

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	343	4	平成20年3月31日	平成20年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年11月6日 取締役会	普通株式	343	4	平成20年9月30日	平成20年12月9日	利益剰余金

5 株主資本の著しい変動に関する事項

当第2四半期連結累計期間における剰余金の配当については、「4. 配当に関する事項」に記載しております。なお、この他に該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用していないため、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産金額の合計額に占める「印刷事業」の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

当社は、本国以外の国又は地域に所在する支店及び連結子会社を有しないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

当社及び連結子会社は、海外売上高がないため、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	447.11円	1株当たり純資産額	455.86円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額 (百万円)	38,415	39,187
普通株式に係る純資産額 (百万円)	38,383	39,152
差額の主要な内訳		
少数株主持分 (百万円)	32	34
普通株式の発行済株式数 (千株)	86,267	86,267
普通株式の自己株式数 (千株)	418	380
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 (千株)	85,849	85,887

2 1株当たり四半期純損失(△)及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純損失(△)	△1.74円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失を計上しており、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失(△)の算定上の基礎

項目	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純損失(△) (百万円)	△149
普通株式に係る四半期純損失(△) (百万円)	△149
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—
普通株式の期中平均株式数 (千株)	85,871

第2四半期連結会計期間

当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純損失(△)	△2.58円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 については、1株当たり四半期純損失を 計上しており、また、潜在株式が存在し ないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失(△)の算定上の基礎

項目	当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
四半期連結損益計算書上の 四半期純損失(△) (百万円)	△221
普通株式に係る四半期純損失(△) (百万円)	△221
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—
普通株式の期中平均株式数 (千株)	85,859

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第97期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)中間配当については、平成20年11月6日開催の取締役会において、平成20年9月30日の最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	3億4千3百万円
1株当たりの金額	4円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成20年12月9日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月13日

図書印刷株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高山 勉 ⑩

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宮木 直哉 ⑩

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鳥生 裕 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている図書印刷株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、図書印刷株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成20年11月13日
【会社名】	図書印刷株式会社
【英訳名】	Tosho Printing Company , Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 沖津 仁彦
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都港区三田五丁目12番1号
【縦覧に供する場所】	図書印刷株式会社本社事務所 (東京都港区高輪一丁目3番13号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長沖津仁彦は、当社の第97期第2四半期(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

